



嘉麻市健康課  
母子保健係  
保健師  
いわなが みほ  
岩永 美穂

# Inter view

「命を育む」ということは喜びと苦勞  
妊娠・出産・育児を通して生じる問題

の連続です。そこで、命の大切さや  
に関して専門家にお聞きしました。



有松病院  
ありまつ ただし  
有松 直 院長

## 子育ての喜びの影に潜む 精神的な苦勞

出産されたお母さんやご家族の不安や悩みを解消するお手伝いと、赤ちゃんが健康に発育していける環境づくりのサポートをさせていただくのが私達、健康課母子保健係のお仕事です。現在、嘉麻市で課題とされているのが20歳未満で出産を迎える若年出産率が高いという点です。全国平均では

## 出産を取り巻く家庭環境は 日々変化しています

私が産婦人科医になったきっかけは、父が産婦人科医であったということですが、お産だけでなく内科的な疾患や、外科的な疾患の全ての領域を通して妊婦さんと赤ちゃんに関わることができるため、この道を選びました。そして、産婦人科医としてこれ

## 全ての子の誕生は 奇跡であり幸福な出来事

まで多くの疾患の治療やお産などに携わってきましたが、勤務医時代と比較すると出産に対する考え方や傾向も変化しています。家庭の核家族化、女性の社会進出など家庭を取り巻く環境が変化するなかで今日では多くの子を出産し養うという家庭が少なくなってきました。

少子高齢化が大きな社会問題となっているように国内の出生率は年々減少傾向にあり、2017年の統計では国内の合計特殊出生率は過去最少の1.43にまで低下したと発表されています。その原因の一つとしてあげられるのが、出産年齢の高齢化です。以前までは30代前半までに出産をするという女性が多かったのですが、現代では多くの女性が仕事をされており、晩婚化が進んでいることから、生活設計上多くのお子さんを産む事ができなかつたり、欲しいと思ってもなかなかお子さんができないと悩まれている方が増えています。

### 命の旅は奇跡の連続

妊娠は奇跡の連続といわれており、誰にでもその奇跡が訪れるわけではありません。タイミングやお父さんとお母さんの健康状態など様々な要因により授かることのできる命です。ですので、その命を大切に愛情を込めて育んでほしいというのが我々の一番の願いです。また、妊娠中のお母さんは赤ちゃんをその胸に抱くまでは、不安や心配事も多いと思います。ご主人やご家族の方にはできる限りのサポートを心がけていただきたいと思いますし、お母さん自身も無理のない生活をするここと、そして市や各産婦人科が実施している母親学級等に参加し、情報交換などをされることをおすすめします。

ご夫婦のもとにきてくれた大切な赤ちゃんの健康な発育のために、我々産婦人科スタッフも全力でお手伝いいたしますので心配なことがあったらかかりつけの医師に気軽に相談していただければと思います。

1.3%であるところ、嘉麻市は7%と約7倍。若年で出産を迎えることにより、経済基盤が整っておらず経済的に困窮したり、ご家族の理解が得られず孤立するケースも多いと言われています。また、出産の年齢に関わらず、核家族化が進んでいる昨今、近くに両親などの支援者もいないまま突然子育てと向き合うこととなり、疲勞や理想と現実のギャップに産後うつになってしまう方もいらっしゃいます。特に出産後の女性は、体内のホルモンが変化するためホルモンバランスを保てず、昼夜問わず続く子育てに苛立ちや、誰も認めてくれないことへの悲しさを感じるようになります。ひどい場合は虐待や育児放棄をしてしまうケースもあります。

## 様々な育児トラブルを解消 するためにできる事は何か

子育てをするご家族の育児トラブルを解消するためには、困った時に

SOSを出せる相手をつくるのが大切です。ご夫婦やご家族間で何でも話せる関係性を構築し、一緒に赤ちゃんを育てていくという意識を共有することで、互いにサポートをし合えるようになります。様々な理由でご家族に頼ることができないという場合は母子保健係を頼ってください。私達は母子手帳をお渡しした時から、そのご家庭の育児サポート状態や支援者の存在の有無などを確認し、出産後は赤ちゃん訪問として市内全てのご家庭を訪問させていただくようにしています。赤ちゃんの発育状況だけでなく、ご家族の心境などからその方に今必要なことは何かを見極め、サポートができるように心がけていますので、遠慮せずに何でも話してください。

ご家族が楽しく育児をすることが赤ちゃんにとっても一番の栄養になります。心配事がございましたら気軽に母子保健係までご相談ください。

●健康課母子保健係 ☎53-11104

## 赤ちゃんを取り巻く人々が連携し サポートしていくことが大切